

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

こんにちは。議長の登壇の許可を得ましたので、ただいまより4番山口裕子の一般質問を始めさせていただきます。

12番目になりますと、いろいろと通告しておりました内容が重なってまいります、私は武雄市民の代弁者として、一生懸命お伝えしてまいりたいと思いますので、執行部の皆様方、よろしくお願ひいたします。

（全般モニター使用）それでは、まず最初に、今回、最初に図書館について質問したいと思います。

いろいろと事情が変わってきて、市民の皆さんもいろんなことに関心をまず持っていらっしゃるということが、私にとってはとてもいいことではないかなというふうに思います。いいにつけ悪いにつけ、いろんな声が届いていると思うんですね。今ここに上げている図書館は、以前にも言いました、山内町に図書館が欲しくて、一生懸命私たちがつくる準備をしているときに、大変参考にさせていただいた、ここは伊万里の市民図書館です。市民図書館というふうに名前がついたのも、市民一人一人が本当に利用しやすく、市民の声を生かすというところででき上がった図書館で、大変魅力的な図書館であります。そういう意味では、今度、民間委託ということに対しまして、私はエポカルの図書館がつくられるときに何かかわってはいませんでした、今回、図書館が変わるということでたくさんの方が寄せられているということは、本当の意味で市民の声を生かされるんじゃないかなというふうに私は思っておりますが、そういう点に対して市長はどういうふうにお思いか、お聞かせください。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

やっぱり市民の声が第一なんです。これはおかげさまで、いろんな首長さんたちと話す機会があるんですけども、大体おっしゃるのはね、何をやっても意見が来なくてとかってみんな言うんですよ、人口5万ぐらいの都市で、こういう地方都市はね。樋渡さんのところはどうかといたら、うちはすごいですって、もう山のように来ますって。マスコミもね、もう佐賀新聞なんか蘭学館を閉鎖とか書くし。だから、そういうふうに、もう一地方なのにね、それは佐賀のがばいばあちゃんの誘致のときからずっとそうなんですけれども、切れ目なく話題と笑いを提供しているわけですね。そうすると、それがマスコミに載せてくださることによって、市民の皆さんたちもすごくやっぱり関心を持ってくださって、それがこの投票率80%って、やっぱりいいと思うんですよ。やっぱり非常に市民と我々の距離が近い。近いということで、いろんな意見を公式、非公式に言ってくださる。きょう傍聴席に中島さんというきれいな女性の方がお見えになっていますけど、この方も本当にいろんなところでいいアドバイスを賜るんですよ。ですので、そういった意味からすると、本当に行政と市民

が近いなということは感じますし、それが今の武雄のよさだと思っています。

ただ、私に対しては批判もすごいです。でもね、これがあるがたいんですよ。これがあるがたい。批判もできないようなところは、もうだめだと思いますよ、私は。ですので、批判も賛成も、あと改善点もどんどん寄せていただいて、いいものは率直に取り入れて、もし我々がやっていることが間違っていたら、それは方針変更もします、修正もしますし、撤回もするし、謝罪もしますので、やっぱりどンドンどンドンいいものをつくっていくというのを市民の皆さんと一緒にやっていきたいというのが、就任直後からの私の思いであります。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

そういう意味で、私も議員という形で、たくさんの声を市民の方が寄せていただきます。きのうの上野議員の質問でもありましたように、本当にエポカル武雄フレンズの皆さん方のボランティアの様子とか、そして、それが少しでも市長のほうに届いて、さらによくなっていくということをお聞きしたときに、本当にグループの人も喜んであったと思うんですが、市民の皆さんも、こういう活動されている方がいらっしゃるんだなということで、本当によかったなというふうに思っています。

また、こういう図書館とかは、たくさんのボランティアグループが盛り上げているというか、いろんな形でいいものにしていっていると思うんですね。それが本当に自分たちの図書館という意味で大切だと私は思います。このエポカルもそうです。本当に、私は子育て支援という形で、前もこういう居場所がありますかとか、ちょっと軽く質問させていただいておりましたが、活動されている市民の方から、もう一度お願いだから教えてということで、尋ねられましたので、きょう質問したいと思います。

ここが伊万里図書館の、下のほうにちょっと見えていると思いますが、ボランティアグループの会員募集中、おはなしキャラバンというふうに書いてあります。私は、ここ伊万里図書館に行って、撮影をお願いさせていただいて、撮影してきたんですが、ここが全部ガラス張りになって、ここはドアになっているんですね、ここは外の風景が見えているんですが、これは創作室と言うんです。おはなし会の方とか、いろんなボランティアグループの人が自由に借りられるお部屋ですね。そこで紙芝居の制作とか、ブラックシアターとかエプロンシアターとか、いろんなおはなし会に使うための活動の場所とか準備とか練習とか、そういうことをやっているお部屋で、やはり伊万里図書館をちょっといろいろ参考にさせてもらって、勉強したときに、本当にこれはいいお部屋があって、直結しているなというのを感じたところです。ガラス張りというのが、中でどういう活動をされているかというのが見えるというところがとてもいいなと思います。エポカルのときは、じゃ、どうしていたのというふうに聞くと、会議室みたいなのが利用できて、中で何をやっているとか、そういうのが見えない

から、突然失礼してあけてしまったりとか、そういうのもあったしということで、できればオープン的なこういうお部屋を、ぜひとも用意してほしいよねという形を伝えられました。

そういう点から、エポカルでは4つのグループが毎週土曜日に2時半から3時までボランティアでおはなし会をしていたわけですね。すると、エポカル自体がちよっと響きが、結構音が響いていたらしいんですね。ですから、読み聞かせとか、そういうことをしていると、来館しているほかのお客さんにちよっと迷惑がかかったりという場合もあったということで、そういうところも勘案してほしいというふうに言われています。これが伊万里図書館で言う、乳幼児とかが、ここをごそごそして、本に親しむことができるというような場所です。

ここまでですね、こんなふうにお話の、これは登り窯に見立てて、この中で階段式になっていて、その中でお話を聞くような、もうとても素敵な空間になっているんですが、これもいろんな形で、危ないとか、いろんな使い方とかもちよっと問題もあったとかは聞いていますが、とてもすばらしい読み聞かせのお部屋ができていますね。これが乳幼児の本とか、子どもたちが居場所とするところですね。こんなふうに、クリスマスも近いこともあって、こういう飾りつけもしてありました。こういうふうに活動していく上で、さらにエポカルがこれからよくなるということだから、使う点で、一番そういう活動をされている方たちの要望が行き届けばいいかなというふうに私は思っているんですが、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ちよっと2つに分けてお話をしたいと思うんですけども、（パネルを示す）きのうお答えをいたしました、2階の今の会議室なんですけれども、今これは学習室のちよっと手前のところですね、これはちよっとパース絵つくってなくて恐縮なんですけれども、ここをボランティアの皆さんたちの会議室にするということと、きのう部長から答弁がありましたけれども、1階にもその場所をちゃんと確保しようということを思っています。

特に子ども関係、お子さん関係については、私のほうにも直接御要望がありますので、ちよっと見せて、（モニター使用）今ですね、実際ありますのは、ちょうど入ってきたときのこの辺なんです。ここにあるんですけども、ここに読み聞かせの場所とかがあるんですけども、これ、さっき言ったように、ハウリング、音が響いたり、やっぱり遠慮されるんですよ、ここ結構いろんな人たちがいらっしゃるので。ですので、今度スターバックスがここにだっと来ます。雑誌販売があります。奥の部分に、先ほどの意見を踏まえて、子ども読書コーナーというのをここに作ります。この面積の1.4倍の面積を確保します。その一方で、じゃ、どういうふうにするかという、ここはちょうど角っこの部屋なので、光を十分に取り入れていって、なおかつ、ここに読み聞かせができたりとかというのもしようと思っているんですけども、遊具も入れて、やっぱり子どもたちが本に親しむということと、

図書館ということに空間として親しむというような環境をつくっていきたいと思っています。そういうことで、なおかつ、児童図書と開架図書の冊数は、今まで1万8,000冊だったんですね、これはそんなに少ない数じゃないんですよ。今度4万冊にします。4万冊にして、より子どもたちが、やっぱり本っていいなって、図書館というのは本当に来て楽しかったよねということで、子どもたちに本当に図書館のすばらしさ、本を読むすばらしさを何か知らせたいなど。そのときに、よく山口裕子議員さんがおっしゃっている親子との関係も、読み聞かせによって、また深くなるということも期待できますので、ぜひこれは力を入れていきたいというように思っております。これも本当にお母さんとか地域の皆さんたちのお声が、物すごく来るんですよ。やっぱり言われたのは、ここ今は茶室があるんですよ。そんなものありません。もうここの茶室、誰も使っていないもん、何か寝ころがったりとかね。そうじゃなくて、やっぱり納税者の人たちがつくってくださった場所なので、より本当に市民価値の高いことをやるというのがやっぱり必要だということで、そういった意見もし出なかったら、もう使いもしない茶室のままです。茶室から子どもたちの部屋、で、茶室というのはまた違うところにちゃんとあれば、僕はいいと思いますので、また御意見を寄せていただければありがたいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

今のシミュレーションのような形で見せていただくと、本当にお母さんたちも安心されると思うんですね。何かしら先にCCCだとかスターバックスが入るとか、何ていうか、商業ベースに乗ったような形にばかり聞こえていらっしゃるみたいで、本当に子どもの場所であるのとか、やっぱり行きづらいんじゃないのとか、やっぱりそういう声がありますので、私も転勤族を10年ぐらいして、Uターンしてこちらに帰ってきたときも、やっぱり子どもを手を引いて行くところがなかったわけですね。だから、そのときにやっぱり行けるといったら、こういう図書館でお友達を見つけたりとか、行く楽しみとか、あと本で親しむ。ここに行きたいという気持ちにさせるというのが一番だと思うんですね。だから、ここで、皆さん聞いていた方とか、本当に安心されると思うんですね。ああ、そういう居場所も用意していただいているんだなということとかですね。あと活動をされている人たちが、さらに今から子どもたちのためにやりたいなど、やっていきたいなという気持ちになる場所になっていくことを私は願っています。

やっぱりいじめ問題とかでみんな心配して、この議会でも上がっていますが、市長もおっしゃいますように、やっぱり家庭とか地域、人とかかわりだと思うんですね。だから、ここで活動している人たち、また、読み聞かせのグループが武雄市内にも15団体ほどあります。私も西小学校で読み聞かせにかかわっているんですが、本当に子どもたちの様子が一番わか

りやすいですね。もう反応といたしますか、元気があるとか、どうしたんだろうとか、クラスによっては、全然違ったりするわけですね。だから、図書館が本当に真の意味で子育てを応援する場所とか、みんなで友達がつくれる場所とか、そういうところに、ますます少子化が進んだときに行きづらくならないようにしていただきたいなというふうに思っています。伊万里図書館とかに行って、私は利用していたけど、新武雄市になったら利用できなくなってしまったんですね。行って読むだけはいいんですが、もう借りたりすることもできなくなりましたが、今度は武雄市は、たくさんの方が期待しているんですね。皆さん行けるらしいねということで。行きたい人が行けるってねという形なんですね。だから、そういうところも含めて、またいい形にですね、市長、蘭学館とかいろんな問題が出てきていますが、本当にさらに市民の声を生かしていただきたいなというふうに思っております。

それから、もう自治体とか市町村とかで共有できないとかじゃなくって、やっぱりいいものはお互い利用ができたというのを私は望んでいますので、そういう方向性というところでも、市長のお考えを聞かせていただきたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

僕ね、もう一部の図書館が貸さないというのは、僕はあり得ないと思うんですよ。これはもし武雄市だったら、もう絶対僕貸していますよ。だからね、何でこうなるのか、もう不思議でならないですね。ですので、それを悔いても仕方ないんで、我々はまず臍より始めよ。門戸をたたいてくださった方は、温かく迎える。去る方に対しては温かくお気持ちを添えて、帰っていただくということが武雄市政の根幹だと思っていますので、利用の地区によって制限をかけたりというのは考えておりません。むしろ、いっぱいやって来てもらって、もう本が全部なくなるというぐらい、私は来てほしいと思いますよ。それが本の魅力だと思うんですよ。しかも、なくなると、またこれニュースになりますから、はい。また、どこかの新聞は悪く書くかもしれませんが、そういうふうに、私とすれば、やっぱり図書館が生活の中心の場になるようになればいいなと思っているし、こういう我々は、さっき黒岩議員さんからありがたいお言葉をいただきましたけれども、やっぱり我々はそのロールモデルをつくっていくんだということ、これが、別にCCCと組む必要はないんですよ、ない。直営でもいいと思いますし、例えば、あるところは丸善さんと組んでもいいと思います。そういったところが各地域の特色を出して、足らざる部分は連携していきますということが大事だと思っていますので、我々は、伊万里市民図書館ですよ、すぐれた図書館だと思います。ですので、そういったすぐれたノウハウは柔軟に、積極的にまた取り入れてまいりたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

本当にたくさんのいろんな心配があった図書館なんですけど、今ですね、あっていると思うんですが、やっぱり市長からこういう答えをいただくことによって、大分皆さんもほっとされているんじゃないかなというふうに思います。

今回、この一般質問をするに当たって、子育て中の方に聞くときに、私たちは子育て中だから、本当にスターバックスといったらコーヒーも高いし、飲み物も高いから利用できんしとかって、そんな言葉もあって、私はびっくりしたんですよね。それで、いや、スターバックスのコーヒー飲まんでもいいとよって、図書館に子ども連れて行けるとよって、何もスターバックス、スターバックスって言うてるから、ここで飲まんと図書が借りられんということは何もないのにと言ったら、ああ、そうよねというふうに言われたんです。あとTカードでどうだこうだと言っている方も、別にTカード使わんでもいいとよってというような。本当に市民の方は思い違いというか、マスコミとかいろんな形で先にニュースに出る部分で、ちょっと取り違えて受け取ってある分も多いわけですね。だから、そういうところで、市長もまた、そういう誤解を生まないような感じでやっていってほしいなというふうに思っているんですが、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

まあ、確かに私も誤解を生みやすい体質でもありますので、そこは十分に反省しなきゃいけないんですけども、だからもう、きょうの蘭学館の閉鎖というのはね、私もくどいので、もう何度でも言いますけれども、これが残念でやっぱりならないんですよ。残念でならない。佐賀新聞さん、いいですか。一旦書かれると、やっぱりそれが流布しちゃうんですよ。定着しちゃうんですよ。ですので、これ閉鎖じゃないじゃないですか、横尾さん。ですので、これはぜひお願いをしたいと思いますよ。

その一方で、さっきのスターバックスの話は、多くの武雄市民がオートバックスと勘違いしていたというのはあるんですが、いや、そうじゃありません、スターバックスなんですけど、あれなんです。飲食については、これもさまざまな御批判を承りましたけれども、基本的には図書館内で本を汚さない、当たり前ですよ。人様に迷惑をかけない、当たり前ですよ。ですので、そのルールが守れるということを前提に飲食も自由ですので、コーヒーも自分のおうちでつくったコーヒーとか、いろんなものは持ち込んでいただいて結構なんです。ですので、図書館を自宅の延長のように使っていただければありがたいというふうに思っております。図書館は貸し本屋じゃありません。図書館は本当にいい空間の中で本に親しんでいただくということを考えていますので、きょうも、結構それ誤解されている方がいらした

ようなんで、それは議会を見てほしいということを申し上げたんで、やっぱりそういう疑問点とかもどんどんやっぱり議員さんとか我々に、またどんどんおっしゃっていただくと、言えば解決しますもんね。その流れというのを大切にしたいなというふうに思っています。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

私のところに寄せられる声も、大半の方が本当に期待をされていて、いつオープンだろうかとか、ええ、4月じゃ遅いとか、そういう声のほうが多いわけですね。だから、みんながもう行く楽しみとして、いろんな問題をきちんと解決して、本当に待ち望んで新しい図書館を待ちたいと思っています。また、ある方が、図書館は人生を変えるとまで言った方がいらっしゃるんですが、本当に私は小さいとき、大人になってもそうだけど、本に出会うということは大きな財産だと思うし、そう自由に行ける場所があるということは、それと、そういう環境で子どもたちが育って、大きくなっていくというのは、もう本当に大きな財産だと思うので、市民の声を大事にしていきたいなというふうに思っております。

次に行きます。2番目の観光についてです。

今までの議員さんもおっしゃっていましたように、今回は本当に5万人から6万人のお客さんということで、物産まつりが大盛況でありました。私もボランティアグループのテントに2日間いたんですが、わあ、すごいなというふうに皆さん喜んで、楽しんでいる姿を見ていたわけですが、今回の成果を今後どういうふうに考えてあるか、今回のお祭りの成果ぶりをどういうふうに判断されているかをお聞きいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

物産まつりの売り上げ等については、まだ私が聞いていないので、本当の意味でのそういう成功かどうかというのは、まだ言える段階ではないんですけども、少なくとも御来訪された市民の皆さん、観光客の皆さんからすれば、非常によかったということをおっしゃっていただいております。ですので、ことしのよかったところはさらに伸ばして、幾つか課題もやっぱりあるんですね、場所の問題とかありますので、そこはちょっと少し修正をして、またやっていきたいと。やっぱり確信をしたのは、そんなに広いスペースじゃありませんので、やっぱり幾つかのイベントミックスをするということは、これは来年もやらなきゃいけないなど。ですが、フェイスブック学会総会はもう来年はしません。やっぱりこれはやると、もうマンネリになりますので、あわせて図書館シンポジウムをやります。もうフェイスブックより、来年の武雄市は図書館ですので、だから、図書館シンポジウムをして、世界中から図書館の識者にお越しいただいて、そこでいろんなディスカッションをしたり交流をしたりと

というような仕方をしたいと思っております。

何でそんなことを言うかという、長くなって恐縮なんですけど、私、パシフィコ横浜というところで図書館総合展というのがあって、物すごかったんですよ、来訪者が。私たち——私とCCCの高橋さんと、あと大学の先生でパネルディスカッションをして、講演も私しましたけれども、今までで史上最大に来たということなので、このCCC図書館に対しては、単に図書館のあり方ではなくて、この図書館そのものが本当の意味での観光資源にやっぱりなるんですよ。それをやっぱり初年度に生かすということを、ぜひしていきたいと思っておりますので、来年は武雄市は図書館の年になります。もうフェイスブックは卒業です。（笑声）冗談です。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

モニター、ちょっと消してもらっていいですか。すみません。

次に、フェイスブック学会総会がもう大盛況だったということで、そこを尋ねようかなと思っていたんですが、もう来年はやりませんということですね。ちょっと、そしたら来年はもう終わりということで、私はフェイスブックも何もやっていなくて、ちょっと疎いほうなんですけど、やっぱりこれだけの人が前日から武雄に、ああ、ここが武雄市役所だみたいな形で、よそから来たようなお客さんが続々と来ておられたので、16日に私は入場券を買って参加させていただきました。場所としては、この辺に座っていたんですが、私は後から知ってびっくりしたんですが、伊勢谷友介さんですか、あの方の講演内容もすごかったんですが、来ていらっしゃってと言うと、もう本当にそれを聞いた友達が、何で教えてくれなかったと、何でそれは武雄に来られたのって、どういうつながりで来られたわけとか、自分から思って武雄市に来られたわけか、それとも、市長がそうやって呼んだのかとか、いろんなことを尋ねられたんですね。だから、いや、今からフェイスブック学会ってあるんだしたら、もう今後もそうやってつながっていくんじゃないかしらなんて答えていたんですが、そこら辺のところもちょっと聞かせていただきたいと思います。つながりとかをですね。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これは、ディスカバージャパンという（現物を示す）本で、新しい日本観光ということで、以前行った南砺市もちょっと入っていますけれども、この中に「あの著名人は今」ということで、すみません、これちょっとさすがに電子媒体にできなくてすみません。これ伊勢谷友介さんがこうやって載っているんですよ。俳優伊勢谷友介とリバープロジェクトが——リバープロジェクトというのは、伊勢谷友介さんのまちづくりをやる団体ですけど、今、地

方に注目する理由ということで、こう、つらつら載って、著名人の筆頭に載っているわけですね。ここのディスカバージャパンの皆さんたちが次に注目するところはどこですかというような会話が合ったんですよ。で、皆さんが武雄とおっしゃったそうなんです、武雄って。武雄が今一番おもしろいってことをおっしゃっていただいて、それで、伊勢谷さんがお越しいただくことになったんですね。ですので、もとより伊勢谷さんと僕はつながりがなかったんですけども、福岡空港にお迎えに行きました、伊勢谷友介さんを。基本的には、お迎えに行くというのは、もう絶対礼儀ですので、私みずから行って、そのときに車中でいろいろ話をしたときに、本当すばらしい方でした。もう意気投合をして、今度一緒に仕事をしましょうということにもなりましたので、そういった方々——発信力のある方ですよ——方々ともやっぱりきちんと連携をする必要があるだろうと思っています。

そのためには、やっぱり武雄市がもう少しブランドにならないとだめだというのはあるので、そういった方々から教えていただくということが大事だと思っていますので、やっぱりこのディスカバージャパンに載りたいですね、次は。これね、一般的にはそんなに実は知られていない、るぶとかのほうがよく知られていますが、このディスカバージャパンに載ると、これは観光業の人たちがみんな見ているんですよ、これ。もちろん我々行政も見ていますけれども、ここにやっぱり載るとというのが、次の我々の目標ですね。やっぱりブランドはブランドを呼ぶんです。婦人画報とか、家庭画報とか、あそこの旅館の、楽天でナンバーワンになった竹林亭。竹林亭も家庭画報、これ婦人画報かな、これ表紙のところに武雄温泉と書いてあるわけですよ。もうびっくりしましたもんね。それで、こうやって開くと、竹林亭さんがどんと載っているわけですよ。ですので、私も竹林亭にお邪魔したときに、ある品のいいお客さんが私と一緒にいらっしやったので、聞いたんですよ。これ、何で竹林亭を知りましたかと言ったら、さっき申し上げた家庭画報か婦人画報、どっちかを見て、参りましたということをおっしゃったので、そういうことかなと思いました。単に、これからは発信するだけじゃなくて、こういうところにひっかかるような発信の仕方が、もう絶対大事だなということを思いました。伊勢谷友介さんのことは好きです。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

私も後から知って、二、三年前の龍馬伝の高杉晋作の役をされていて、ああ、この人だったんだとか後から思って、その方が語ってあったんだなと思って、でも、フェイスブック学会も私も初めてだったし、どういう人が集まって、どんなことを発信するんだろうという興味もあって聞いていたんですが、私、この人はどういう人かとも知らずに話を聞いていて、この方が語られたときに、私はスマホも扱えないで、まだ携帯なんです、これを持って、この一つが、自分のことのために使うんじゃなくて、この一つのグッズ、ツールが世界の

環境のこととか世界の平和のことという、そういうことを、使い方次第でとてもいい世界平和、環境のこととか、そういうことにつながっていくんだという一言を言われたときに、ああ本当にすばらしいなど。自分のために使うんじゃないかって、世界平和のためにという形ですね、言われたときに、ああ、こういう内容で皆さんが取り組んであるんだなということを感じました。また伊勢谷さんが武雄に来られる機会がありましたら、もっとたくさんの方が入る、文化会館の小ホールなり大ホールなりですね、そういう形で皆さんお話を聞きたいなというふうに思っておりますので、よろしく願いいたします。

観光の次なんですけど、これも昨日と重なっていました。オルレコースが武雄市にできました。私も、市長はジョギングというか、マラソンで走っておられますが、最近、健康づくりという形で、市内、町内、本当によく歩かれていますね。そして、万歩計を持って、きょうは1万歩いったとか、2万歩いったとか言って、とてもウォーキングの人口がふえていると思うんです。それで、ことしからオルレコースに武雄市が選定していただいたということは、とても大きな魅力があると思うんです。もう既に3月からたくさんのお客さんに来ていただいていると思うんですが、これまでどれくらいのお客さんが来ていらっしゃるのか、お尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

森営業部長

○森営業部長〔登壇〕

モニターをお願いします。

（モニター使用）武雄コースの状況ということですが、3月のコース設置以降、韓国から多くの観光客が歩かれておまして、20名程度の団体客については、韓国の旅行会社によるツアーで来客されております。主に市内の宿泊施設を利用されておまして、観光課にてコースアテンドも実施しております。ほかに四、五名の個人旅行での歩かれる方も多くなってきております。

モニターのほうでグラフを示しておりますけれども、これが九州オルレコース4コースの韓国からの総客数、韓国の旅行会社のほうから九州のオルレに送り込んだ客数というふうなことになっております。

まず、青いほうが3月から5月までの総客数、赤が6月から8月ということになっております。武雄では3月から5月に423人、それから6月から8月に514人、計の937名となっております。大分県の奥豊後では、両方合わせまして1,564名、熊本の天草維和島では157名、鹿児島島の指宿開聞岳では732名というふうなことになっております。さらに、JR九州とのコラボによって、JRウォーキングに武雄コースを採用いただきまして、多くの方に武雄を歩いていただきました。さきの11月17日は120名程度の方が歩かれているというふうなことになっております。また、武雄町のまちづくり推進協議会によるオルレ体験会が開催されて

おりまして、これには100名程度の市民の方が歩かれておりまして、市民の皆様による啓発も行っていただいて、ありがたく思っているところであります。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

少し補足をすると、これは本当にうちの秋月と大野が中心となって、本当によく頑張っているんですね。もう寝食なく、これは本当に頑張っているんですよ。その結果なんですけれども、来年の3月末までかな、ちょっと領土問題の関係等があるので、定かじゃないんですけれども、900人から1,000人、韓国からお見えになります。これも、私も何度も行きましたけれども、やはりうちの職員が、みんな言うんですよ、武雄市の職員が熱心なので、ここに決めさせてもらいましたということなんです。特に大野君に至っては、私の知らない間に何か韓国語の勉強もしているんですよ。これは、民間から言えば当たり前というふうに言われるかもしれませんが、身内で言うのもあれですけど、本当にこれはうれしく思います。どれだけ上達しているか、それはわかりませんが。その一方で、韓国語ってやっぱり難しいですね。難しいので、今度採用で、韓国語が自由自在にしゃべれる子を採用しましたので、できれば、これは人事の中で話をすると思いますけれども、その子を九州オルレの担当にできればいいなというふうに思って、人事権は僕じゃなくて副市長にありますので、余り受けませんでしたけど、そういうふうにしていきたいというふうに思っております。これは必ず伸びていくと思います。

そこで大事なのは、やっぱり地元の皆さんと韓国からお越しの皆さん、これ、次に台湾に多分飛び火するんですよ。詳しくは言いませんけれども、台湾に飛び火しますので、そのときに、そこで歩きながらまた交流ができればいいなと、ウォーキングされている方同士ね。それと、なおかつ我々市民とそういった方々が交流できる場というのを積極的につくっていききたいなと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

本当にですね、私もちょっと遅かったんですが、ことしになって初めて韓国入りというか、韓国に行ったんですね。それは5月の麗水の世界博が初めてで、そこは本当に随分田舎で、また雰囲気違ったんですが、2回目は11月に釜山と慶州のほうに行かせていただいたんですが、本当に武雄のことをよく知っていらっしゃったり、日韓友好というか、ちょっときのうは市長も随分お怒りで、宮本議員さんにちょっとあれだったんですが、本当に私はこの日韓友好というか、この武雄市から、わあ、こんなふうにかくさんのお客さんがいらしているし、私たち武雄もおもてなしとして、一緒にウォーキングとかトレッキングができればいいなと

いうふうに思うんですね。

今も、桜マラソンとかいって佐賀が打ち出して、もう定員がいっぱいになったと言っておりますが、武雄市はこのオルレコースをウォーキングの大会みたいな形で、名物というか、日韓友好も含めてですが、何かそういうふうに投げかけてもらったら、自由に参加しやすいよねという人がいるわけですね。何か自分一人でこのコースを歩くというのは寂しいし、何かそういうふうに韓国からお客さんがいらしたときに、一緒に友好を深めるといふか、そういうトレッキングコースを歩けたらいいなという、一つのお祭りみたいなのを望んでいる声が聞かれるんですが、それに対しては、市長どうお考えでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

答弁に入ります前に、ちょっとおさらいをしたいと思います。

モニターをお願いします。

（モニター使用）きのう、ちょっとこれは申し上げましたけれども、14.5キロのコースなんです。具体的にどうなっているかという、白岩運動公園の裏の、トリムコースと書いていますけれども、これ非常に見事な——行かれたことありますか。

〔4番「ないです」〕

すごくきれいなところだったんです。これ貴明寺ですよ、非常にきれい、その手前のお地蔵さん、きのう言いましたけれども、これ、お地蔵さんが観光資源になっているところなんです。これは山岳遊歩道で、ここもきちんと予算を入れて整備をしました。ですので、今は非常に歩きやすくなっています。これが遊歩道の頂上からなんですけど、御船山がこんなにきれいに見えるんですね。大楠ですね。みんな、ここにいらっしゃると、韓国の方でも非常に驚嘆の声を上げられます。行ってすぐには見えないんですよ。抜けたところで、ぱっと見えるんで、なおさら驚きをされると思います。これは武雄温泉の新館で、ここがラストの場所になるんですけれども、こうやって、このコースだと、きのう上野議員さんのときに少し申し上げましたけれども、もともとの起源のチェジュ島、済州島のオルレに匹敵するのは武雄だけだということをおっしゃっていただいて、僕は人の言っていることはすぐ真に受けますので、この件については九州観光推進機構ですよ、あるいは九州運輸局は話をし、ぜひそういう大会を武雄に誘致したいと思っています。国際大会を誘致したい。国内的に言うと、例えばフェイスブック学会をやっていたときに、上天草で国内のそういう歩くシンポジウム、あったんですけど、二、三百人集まっていたそうです。武雄の場合は、これをやった場合には多分1,000人から2,000人は来ていただけだと思いますし、私が、外遊じゃありませんよ、チェジュ島に行ったときに一緒に20キロ歩いたときに、何と6,500人ですよ、6,500人の人が世界中から来ているんですよ。そのコースをですよ、20キロといっても、最

初のところは交通渋滞。途中で婦人会の皆さんたちのおもてなしがあったりとかしていただきましたので、そういうことで、ぜひ大会をお願いして、ぜひ日本でやる場合は武雄でやってくださるように、これから動いていこうと思っています。

そこで、残念なのが宮本栄八通信なんです。もう、ああいう水を差すようなことはやめてほしいんですよ。宋さんという名前を出したりとかね。宮本栄八議員さん、ちょっと私、答弁中なので、静かに辞書でも読んでいてください。いや、あなたが行くと、もうわやになります。だから、もう来ないでください。ですので、それはもう我々で、あなたがやった不始末は我々でちゃんとします。もうああいうことを書かないでください、本当、オルレと領土問題とかね。ですので、ああいう水を差す行為はあったんですけども、それはそれとして、もう着実に進めていこうと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

そうですね、本当にたくさんのお客さんも来ていらっしゃるし、武雄市内にお泊まりいただいていたって、本当に韓国から、今こういう問題の中でもやっぱり武雄市が仲よく人と人につながっていけば、とてもいい交流ができるんじゃないかなというふうに思います。

また、11月に釜山のほうにちょっと視察に行ったときに、個人的な友好で釜山女子大学の生徒さんが武雄市に宿泊を決められたというふうに聞いておりますが、これもすごいことだなというふうに思いますが、そこら辺の見解を、市長お尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

いや、これはね、本当にすごいことだと思うんですよ。16日でしたっけ、15日から韓国の釜山女子大学の生徒さんを中心として50名お見えになって、温泉ハイツにお越しいただくそうなんですけれども、実は今までは、ああそうかで終わったんですけど、ここから先が今なんです。みんなフェイスブックを持っているんですよ、もう。しかもスマートフォンでやっていますので、この子たちが韓国語でもどンドン流すんですよ。これが一つの、おひとりるるぶみたいなものですよ。ですので、この人たちが、ああ、あの子が行っていると、宋さんが行っているとか、あるいは朴さんが行っているってなると、じゃあ行ってみようというふうになるので、今度その50人の、もちろん我々は関係しますが、そのときにぜひ言おうと思っているのは、どンドン発信してほしいと。ブログとかツイッターとかフェイスブックで、特にフェイスブックで発信をしてほしいということは申し上げようと思っています。本当に武雄に50人ですので、ここからがポイントで、これね、恐ろしいところで、もろ刃の何とかで、ここでだめだとなると、それまで発信されますからね。だから、受け入れるとき

というのは相当緊張感を持って、僕も言葉を選ばないと、これは結構大変なことになりますので、ぜひ武雄市民の皆さんたちもこれをごらんになられていると思いますけど、ぜひ、来られたら、いつものように接して、御挨拶をしていただければありがたいなと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

釜山女子大学の方たちは日本語学科に所属して、日本のことをたくさん勉強されていて、日本語もお話しされますので、そういうとき、やっぱり武雄市民は、向こうは日本語もしゃべってくださるので、とても交流を深めることができるんじゃないかというふうに思いますので、それからまた次に始まるようなチャンスにしていけたらいいんじゃないかなというふうに思います。

実際に、韓国の方たちがお世話している方たちの話を聞けば、やっぱり福岡空港をおりて、一番武雄市が1時間ちょっとで届くわけですね。そういうふうに温泉とか、風光明媚で、本当にいろんなものがそろっているということで、ここを選びたいというふうにおっしゃっているので、やっぱり今一番そのところを、つながっていくというところを大事にしていけないといけないんじゃないかなというふうに思います。それについて御意見をお聞かせください。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

いや、本当、武雄市があれですよ、福岡空港から、しかも高速があつて、これは松本町長さんのおかげでもあるんですけど、1時間で、しかもインターから近いというのは、本当にこれはありがたいですよ。私も韓国に、外遊じゃないですよ、韓国に行ったときに、あれなんですよ、いろんな地区のことを言われたときに、同じことなんですよ。空港からどれぐらいかなとか、あるいはホテルからどういう交通機関があるんだろうかとかというのを考えたときに、武雄というのは、1時間というのは非常に、これね、1時間半となると、また感じ方、ね、山口裕子議員さん、違いますもんね。ですので、この1時間というのは本当にありがたいし、新幹線、フル規格になるとは思いますけれども、そうなると、さらに武雄市というのが韓国、中国、台湾、シンガポール、ASEANの皆さんたちから本当に愛される奥座敷になるとは思いますので、その間に我々は自分たちも含めて観光資源だと思って、それを磨いていく必要があるだろうと思っております。

ちょっと話はずれますけれども、私は、今の私を含めて行政そのものも観光資源だと思っています。観光資源だと思っていますので、議会の皆さんとか職員の皆さん、あるいは

NPOの皆さんが多うございますけれども、もてなしの気持ちで、一回帰ってまた来たいなというように思ってくださいるように、我々は真摯に対応をしたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

これは本当に新しい観光として、オルレコースというのが生かされて、いい観光資源になっていけばいいなというふうに思っています。

それでは、次に、これは山内町時代からボランティアとともに温めてきた、黒髪山の夫婦岩。サミットはもう既に終わりましたが、ライトアップというのが続けられております。これはいつも年末にあっていたんですが、一番忙しい時期と、天候が悪かったりして、いい夫婦の日という形で、11月22日に行われているんですが、ここも本当にお客さんが大変ふえているそうです。いい夫婦の日だけではなく、山を愛する方、今、山ガールとかそういう形で、山に登りに来る方、あともみじ狩りに来る方、桜を見に来る方とか、山内は本当に自然公園のまちづくりという形で進めてきましたし、この黒髪山周辺にたくさんの観光客が集まってくる、ふえているということをボランティアで活動している方々がお世話をされていて、そういう話が聞かれますが、市長は、この黒髪山周辺をどのように捉えていらっしゃるのでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

大切な自然遺産だと思っているんです。これは私たちが思っている以上に、さっき山ガールというお話が出ましたけれども、僕、ジョギングするんですよ、山内のほうもジョギングするんですけど、結構年配の方でも着飾った方が歩いておられるので、どこに行くんですかと聞くと、いや、今から黒髪に登りますって。どこからですかと聞くと、関西からですということ言われて、お泊まりはどこですかと聞くと、嬉野温泉とか答えられたりするんですけど、それはそれとしても、山内に本当に多くの皆さんたちがお越しにいただいているということで、本当にうれしく思っています。皆さん褒められます。非常にけばけばしくないとか、高い建物がなにかということ褒めていただいていますので、これは今までの山内町民の皆さんたちのおかげだと思っているんですね。

それで、私が今後これをどういうふうにしたいかという、もう少しうまい形でやっぱり宣伝をちゃんとしたいなと思っているんですね。ですので、さっき申し上げたように、泊まりが嬉野温泉でもいいんですよ。いいんですけど、できれば武雄温泉にやっぱり泊まってほしいじゃないですか。ですので、それが例えばパッケージになるとかということはやっぱり考える必要があるだろうと思っています。ちょっと私も実は、こんな偉そうなことを言って

いて、黒髪山に登ったことがまだありませんので、ぜひ裕子議員さんと一緒に登りたいなと、このように思っております。妻も登りたいと思っています。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

本当にですね、黒髪山は、黒髪山を愛している方がたくさんいらっしゃって、これに快くボランティアに参加してくださっている方が、本当に草払いからごみ拾いとか、いろんな形で応援してくださっているんですね。私も乳待坊会という会に入っていますが、山はこのごろマナーとか悪くって、結構ごみが多かったり、いろいろ大変なんですけど、この黒髪山は多分ボランティアの方たちが本当に熱心にしていただいているので、ごみが落ちていなかったら、やっぱり観光に来た人も持って帰るわけなんですよね。1つ2つ落ちていたら、やっぱりそこはなんとなく気が緩んで落としていくみたいなのところがあって、ボランティアグループの方たちも不満も何も持っていらっしゃらなくて、山が好きだから、黒髪山が好きだからと言って、快くボランティアをしていただいております。ライトアップのときも、山内のまちづくり課の方たちとか商工会とか、いろんな方たちのボランティアによって、いい夫婦のライトアップがされたんですが、ことしがたまたまだったかもしれないんですが、ちょっと近過ぎたんですね。物産まつりの17日、18日であつたら、今度は22日という形でですね。ここはもう総動員してライトアップにというふうな形にならなくてもよかったかもしれないんですが、日程的な形は、いい夫婦の日という選定はすごくいいと思うんですが、この物産まつりというのが今不定期に動いているんじゃないかなというふうに思うんですね。そこら辺の計画というのはないのでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長（発言する者あり）

○樋渡市長〔登壇〕

後ろのほうから、今から考えると言ってくれと言われましたので、一応基本的な方針とすれば、あれなんですよね、民陶火祭りもそうなんですけど、あと山内で窯開きが23日を中心にやられていたと。これね、メリットとデメリットがあつて、やっぱり一緒にやったほうが、一緒の日に、23日にこれらの祭りをやったほうがいいのか、その前後に、そうすると、夫婦の日と23日は重なるわけなんですよね。そうすることによって、省力化がひよっとすると図られるかもしれない。ですが、場合によっては雨になる可能性があるわけなんです。そうすると、ことしは晴れて、去年も晴れてよかったんですが、大概是晴れてよかったんですが、全部アウトになる可能性があるわけなんです。ですので、やっぱり重なることのメリットと離すこと、でも、余り離すと、これがまたちょっとあれなんです。やっぱり、何というんですかね、余りうまく言えないんですけども、効果を減殺してしまう可能性がありますので、一回こ

れちゃんと話し合おうと、各団体の皆さんたちに寄ってもらって、そこで全員が満足するものはないかもしれませんが、納得するようにね、納得していただくように、その集まりをやっぱり一回しなきゃいけないなと思っています。ですので、私個人的には、個人的にはですよ、イベントは重なったほうが、雨の問題とかはありますけどね、重なって、例えば福岡から物産まつりに来ましたと、で、待っていると、そこで御飯を食べて、どこかでお茶を飲んで、夫婦岩のところをライトアップを見に行こうというような流れがあっているのかなど。物産まつりのときは夜の流れが余りなかったんですね。確かにフェイスブック学会の影響で、泊まる人たちが多くて、そのときに武雄は全部ソールドアウトだったんですよ。全部もう売り切れで佐賀市まで、宿泊が足りないというぐらいまで、皆さん全国からお越しいただいたんですけれども、そういうふうに、フェイスブック学会はもう4年に一遍にしますので、僕は学会長ですので、4年に一遍にしますので、来年泊まっていたくような仕掛けをするには、やっぱり夫婦岩、22日、その前の日にあるじゃないですか、夫婦岩を見て、泊まって、物産まつりに参加をするというのは一つのあり方だし、例えば民陶火祭りが23日にありますので、ライトアップが終わって午後から民陶火祭りに行ってみようとか、山内町の窯開きに行ってみようとかというような流れができればいいなと思っていますけど、これは押しつけるつもりは全くありませんので、会の中で、集まりの中で決めていただければありがたいなというふうに思っています。どう決まっても、我々は全面的に応援をします。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

本当に黒髪山のライトアップとか自然を愛して、本当に自然の公園という形で、とてもいいお祭りなので、いい形で残していただきたいし、行政とのボランティアの方たちとの連携というのが一番だと思うんですね。もう本当に気持ちよくボランティアの方たちも参加してくださっているので、そこら辺の連携を、今後よりよくしていただきたいなというふうに思います。

それでは、次に行きます。

次に、各種行事の連携と統一。さっきのお祭りに関しても、よく似ていたんですが、今度、このチラシのように、（チラシを示す）人権フェスタ in たけおというのが、初めて武雄市民男女共同参画啓発イベントと合体して講演会をすることになりました。これは活動している人たちの声からも上がっていたんですが、もういろんな講演会が武雄市は今あっているんですが、こういうふうに何か一緒にやれるものは一緒にしたらどうだろうかという声も上がっていたし、多分そういうところで、こういう形になったと思うんですが、ほかにもいろいろ人権フェスタとか社明大会とか、いろんなPTAの教育講演会とか、いろんな行事、啓発の講演会とかあっていると思うんですね。だから、行政として指導できるかどうかはわかり

ませんが、これはまず第1回で12月22日にありますので、結果がどうだったとかこうだったとかはまだありませんが、こういう形で連携して統一していったりできないかというふうに、今後ですね、思うんですが、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

宮下つながる部長

○宮下つながる部長〔登壇〕

議員さん御紹介のとおり、今年度は初の試みとしまして人権フェスタと男女共同参画啓発イベントということを合同開催しております。また、これまでもトムソーヤフェスティバルと子育て応援フェスタ、これを、トムソーヤ・ジャンボリーということで一体化して実施してきております。こういうことで、先ほども市長が申しとおりましたように、相乗効果が出るというものは積極的に一緒になって、いわゆるアピール効果が高まるようにやっていくべきだというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

いろいろたくさんのを重ねることによって、啓蒙啓発できるかもしれませんが、どの会に行っても、同じような顔ぶれで、やっぱり動員されてばたばたしている様子があったりとか見受けられますので、より内容のよい、市民に啓蒙啓発できるような形にしようとしたら、こういうふうに、あっていませんけど、まだどういふ結果かわかりませんが、人権といえば、いじめとか、そういうのもそうだし、だから、そういうふうにとまとめることができたなら、今後そういうふうな形ですていけたらどうかなというふうに思って、ここで上げさせていただきました。12月22日はこういう形ですので、皆さん、その成果が出るかどうかかわかりませんが、みんなで参加できたらいいんじゃないかなというふうに思っています。

それでは、最後の質問に行かせていただきます。

最後の広報についてです。広報は2つ上げさせていただいておりますが、まず、今回、物産まつりで6万人のお客さんとかという形で、大変なたくさんお客さんに来ていただきましたが、このポスターについて、私のところにたくさんお尋ねがありました。「ひと」と「もの」の、グリーンと黄色の字がひっくり返っていると、あれは反対じゃなかろうとか、意味はどういう意味だろうとか、何でこういうふうなポスターになったんだろうとか、本当にたくさんのお客さんがありましたので、市長から、きちんとそのポスターの意味を言っていたらなと思いますので、お願いします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

この答弁はまた物議を醸しそうなので、ちょっと冷静に答えたいと思いますけれども、物議を醸そうと思って、あのポスターをつくりました。というのは、今、ポスター見てもらえばわかるんですけど、武雄市の庁舎だけでも四、五十、ポスターを張ってあるじゃないですか。もう全部アピールをして、けばけばしくなって、なおかつ、あのポスター群を見るだけで、もういいやって、だから全く逆のことをやろうと思ったんですよ、逆のことを。だから、青と黄色がすごく似ていて、近寄らないとわからないんですよ。近寄らないとわからない。それともう1つが、字を「もの」と「ひと」をひっくり返した、これはデザイナーの中野さんのアイデアで、僕はいいなと思っているんですけども、考える、そこで。あのね、禅の禅寺はやっぱり考える仕掛けがあるらしいんですよ、そこで。だから、ここは禅の思想を十分に取り入れて、禅の思想を。そこで、立ちどまってやっぱり考えてみると。現代人は立ちどまらないで、考えないじゃないですか。だから、一旦立ちどまって、考えていく。これは私は議員各位からそれを学びました。立ちどまって考えると。そして、一呼吸置いて発信をするということを考えるということ、あのポスターにはそういう意味を込めました。その結果、どういうことが起きたかということ、賛否両論。あれでもいいという方もいらっしゃいます。もうこれじゃ全然だめだという方もいらっしゃいます。それで、あのポスターを見て、ああ、物産まつりというのはこの日なんだとわかっていただくことが達成できたということ、を思いますので、我々はやっぱりタブーを破りたいんですね。タブーを破る。それと、これは吉川議員からもありましたように、今までの固定観念じゃなくて、そこから外れたところからもう一回見てみるというのは、私は山口裕子議員から学んだので、それをそのままさせていただいているところであります。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

本当にあれは、役割はいろんな形で私はあったと思うんですね。やっぱり今はいろんな見方があるんだという意識改革というかな、そういう分を含めて、あれにはあったと思うんですね。だから、私は尋ねられた方に、あなたがそう言うように、ああこれは何だろうかというふうな、もうそれで効果があったというか、そういうポスターじゃないだろうかというふうに私は答えたんですが、それと同時に、もう1つ食育、もうずらっといっぱい書いた武雄の食育のポスターと、あと郷土芸能のポスターと、本当に比較がきちんとできるようなポスターが4枚もあったわけですね。だから、やっぱり市民の今までの価値観でいる人とか、あれはわかるよ、あれはよかったねという人の意見とかがいっぱい交錯したわけですね。私は私なりに、そうやって皆さんには説明しました。そしてまた、国会議員の小泉進次郎さんが来られてですよ、武雄を訪れられたときに、うわっ、このポスターはいいねって、すごい声を上げられましたよね。市長、これはすごいって。やっぱりこんなふうに改革しないと

ないみたいなことを言われたので、やっぱりそういう意識がわかる方とか、そうではない方とかで、やっぱりいろいろ問題があるので、そこはやっぱり丁寧に言ってあげないといけないかなと私は思いました。やっぱりインターネットとか、フェイスブックとか、ホームページとか、いろんなもので情報をとれない人は、ああいうポスターを見て、どこに行けばいいのかなとか、同時に、どんな開催がされているのかなというのをやっぱり確かめたいわけなんです。それにしても不親切で、もったいないポスターだったというのを、私に声を寄せられました。

それと、職員に尋ねられたそうです。このポスターは何だろうかって、どがん意味のあるとねと。そしたら、職員がわかりませんということだったんですね。だから、余り職員の意識とか市民の意識も離れないぐらいに、ちょっと意識改革の意味もあるでしょうが、やっぱりそこら辺のことはわかっていただきたいなど。いろんな形で、だから、あのチラシも悪くはなかったと思いますが、そんな意見があったということで、再度市長の答弁を求めています。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

わかりました。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

またいろいろとびっくりするようなことがあるかもしれませんが、それなりに皆さんが理解して行って、いいほうに進んでいけばなと思っています。

それでは、広報についての最後です。モニターをすみません。

（モニター使用）これが次、イノシシの鳥獣害対策で上げられていますが、これの、私、広報で上げているのは、お肉がここの加工所でできているわけですね。それで、この加工所の方たちも本当一生懸命頑張ってあっていて、どんなふうにして売ってあるんだろうなということで私がお尋ねしたら、物産館と道の駅で売っているということで、あとは、ここに来たら買えるということなんです。ちょっと市長もどんなふうにしてあるかなと思って、ここで上げさせていただきました。やはりイノシシの害が多いという形で、これを一つの武雄の名物という形で打ち出されたと思うんですね。だから、もう本当に一生懸命頑張っておられるし、あとパトロール3人、捕獲隊が5人という形で、これも行政のほうからしっかりと、人員も確保していただいているので、ここで働いている方たちも、本当に職員の方たち頑張っていただいているので、ありがたいということで、まずまず運営がうまくいきましたということでした。

ここが、武雄地域鳥獣食肉加工センターというところですね。これが、ちょうど私が取材に行ったときに、イノシシがとれましたという形で持ってこられました。この方が持ち込んだ人で、こちらはお肉加工の人なんですけど、まず、こうやって洗われるそうなんです。そして、もう、ここ本当に狭いんですが、肉がやっとこせ加工できるような感じで。もうこれは私もびっくりして、行ったらもうぶら下がっていたんですよ。（発言する者あり）それで、一生懸命2人でされています。これが商品なんです。これがスライスした肉。売れるときは塊でも売っていらっしゃるそうです。これが新商品のハンバーグです。これは1個200円で、2個で400円売りです。2個入りです。これがカレー味のイノシシ肉です。そして、これはウインナーですね、3本。これ結構長いので、これが500円、500円です。これが400円ですね。これはいろんな上中下とか、いろいろ肉はグラム700円とか、500円とか、種類によってあるそうですが、佐賀牛より高いイノシシ肉じゃないですかとか、いろんな、余り喜んで、武雄の名物として愛されないといけないのに、なかなか、もうイノシシねという形になっているので、ここの加工所の方たちは本当に一生懸命、何とか広報して、今やっと順調に進んでいるという形で、本当に武雄市の職員も頑張っていて、いろんなところに販売の応援をしてくれたりとしているということだから、この販売の応援をもう少し、仕掛けた市長として、応援をしていただきたいということですが、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

モニターをちょっと変えてほしいんですけども、（モニター使用）今ですね、これは業界誌なんですけれども、これは料理関係者の大抵の方が読まれている、「素材のちから」というところに、武雄のイノシシを集中的に今取り上げてもらっていて、これをごらんになられた有名旅館の方とか、あるいはレストランの方が武雄のイノシシを使っていたかということになって、肉の卸売業者さんとも直接関東、関西、九州にパイプができています。こういうプロ向きなところと、あと、やっぱり一般向けが大事なんです。これは「素材のちから」というのに書かれた中身なんですけれども、このように特集をされていて、写真もすごくきれいなんですよ。ですので、こういうふうにしていただいています。

一方で、先ほどの、ちょっとモニターを山口裕子議員さんののにしていただきたいんですけども、これ、加工品になると、かなりやっぱり安くなるんですよ。安くなりますので、これをF&B良品等でちゃんと取り扱いたいと思っています。

実際ですね、さっきにちょっと話戻るんですけども、私、那須町に呼ばれたときに泊まった旅館で、そのメインディッシュがイノシシだったんですよ。イノシシで非常においしい。本当においしくて、これ、出されているんですかと聞いたら、一番の人気。選ばせるそうなんです。イノシシと牛と魚と選ばせるらしいんですけど、やっぱり今は健康指向でイ

ノシンを選ばれる頻度が高いそうなんですよね。ですので、これ本当にいろんな層でできると。やっぱりおっしゃるとおり、これをもっと安くしなきゃいけない。安くするためにはどうしなきゃいけないかって、やっぱり売れることなんですよね。売れば売れるほど、やっぱり安くなっていくと我々は思っていますので、とにかくF&B良品に、こういう加工品もそうなんですけれども、鍋セットみたいな形で寒いときに出していければいいなど。みそは角さんのところのみそとか、豆腐は平川豆腐とかというふうにして、地元の、単にイノシンだけじゃなくて、そういう鍋で売っていくということが大事だし、その鍋はもう例えば武雄の中の窯元のものを使うとかというふうにできればいいなというふうに思っておりますので、一生懸命売っていきたいと思っておりますし、各フェアがもうあっちこっちであるんですよ。広島球場とか——今は広島のマツダズームズームスタジアムとかね、東京ビジネスサミットとか、いろんなところでもちゃんと出していくということで、認知度を上げていこうと思っております。ですので、議員の皆さん方におかれては3食イノシンをお願いしたいと、このように思います。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

こうやってイノシンがですよ、持ってこられても、これは3分の1ぐらいしか肉にはならないそうなんです。脂の乗り方とか処理の仕方とかによって、3分の1は肉にできるけど、あとは月2万円ぐらいの廃棄処理もかかっているという形で聞いています。それで、これは肉ですね。そして、こうやって、この物産まつりのときも、イノシンの串カツとか、いろんな形で一生懸命アピールして、一生懸命販売促進をされていました。あと、場所がこうやって、最初見ていただきましたが、ここの事務所が本当に1.5坪という形で、もうこの加工所も狭いんですが、本当に視察が多いそうなんです。視察に来られても、本当どこも通すことができなかったりで、あとは肉の販売に来られても、販売というお店になっていないし、とても狭くって困っているということで、だから自分たちも販売促進をして、自分たちの努力をして、前のところにプレハブでもいいから事務所と店舗を構えたいようにもおっしゃっているんで、さらにそれぐらい努力されているので、そういう形になっていけばいいかなというふうに、私もここに尋ねに行って感じたところであります。視察が本当にふえていて、対応がこの中ではもうできない状態だそうなんです、そこら辺も含めて、市長の今後のあり方についてお尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これ、拡張も含めて応援したいと思います。私も同じことを聞いていて、やっぱり視察に

来られた方というのは、来たあかして、やっぱりお土産でもそうだし、帰ってまた説明しなきゃいけないですもんね、加工品という意味でも。最後は胃袋に入ると思うんですが、そういった意味で、ぜひここにやっぱり買えるものを置く。そうすると、特に山内町の方を中心として、ここは結構交通の要路でもありますので、帰りしなに買っていくとかになればいいなと思っていますので、これはちょっと県と農水省と相談をして、できるだけ拡張の方向で考えたいと思います。なおかつ、ここの皆さんとよく相談をして、どういう拡張の仕方をすればいいのかということも含めて考えたいと思っています。

さっき、ごめんなさい、答弁ちょっとし忘れたんですけど、ぜひお願いがあるのは、牟田前議長さんからお話がありましたけれども、旅館組合の皆さんたちをお願いしたいのは、今、どういうふうに武雄の食が言われているかということ、どの旅館で食べても、大体もう京懐石と同じようなのが出てくると。私、先般、世界遺産の五箇山に行きました。そしたら、そこは刺身なんか出るわけないんですよ、もう山の中だから。で、山菜料理ばかりです。海がないので、イワナの炭火焼きです。山菜の漬け物とかですね、もうむちゃくちゃおいしいんですよ。自分たちはこれしかありませんっておっしゃっているんですけど、それが実はごちそうなんですよ。ですので、やっぱり武雄でしか出せない、例えばこのイノシシね、高い高いって旅館組合の方はおっしゃいますけれども、刺身もいいと思いますよ、いいと思うんだけど、やっぱりここの旅館に来れば、例えばイノシシが食べられると、例えば、あの旅館に行ったら、すごく新鮮なお刺身が食べられるというふうに特色づけをしていかないと、恐らくもうもたないと思います。みんな食というのはすごく大事だと思っていますし、我々が、実際市民が日ごろ食べているのをやっぱり出していくということが、由布院が今はそう切りかわっているんですよ、思いっ切り切りかわっているんで、そういうふうに日ごろのおもてなしがごちそうになるように、やっぱり旅館も考えてほしいなということを思います。もうフルセットで出てきても、食べ切れないですもんね。ですので、そこはぜひお考えいただければありがたいなと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

本当ですね、加工所の方も捕獲隊の方たちも大変努力をされています。イノシシの害も大変だということで、これをいい形につないでいくということで、加工所ができ上がっていますので、本当にいい形になっていくことを願っています。加工所は9時から16時まであいているそうで、販売はそこでしているということです。また、捕獲隊の人たちが捕獲のところで、イノシシが最近賢くなっていて、なかなかかわなに入らないということで、大変苦労されているということも聞きましたし、これはある意味おもしろい打ち出しで、市民に愛される食卓に、お客さんが来られたときとか、そういう打ち出しになればいいんじゃないかなとい

う形で、職員の方も、加工所の方、捕獲隊の方たちも、パトロールの方たちも一生懸命努力されているところを市民みんなで応援して、つないでいけたらなという形で上げさせていただきました。

これで私の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（杉原豊喜君）

以上で4番山口裕子議員の質問を終了させていただきます。